

宮代町郷土資料館だより



第45号

企画展 南埼玉郡と宮代町

今春の宮代町郷土資料館の企画展は「南埼玉郡と宮代町」です。一般的に南埼玉郡と言うと宮代町、白岡町、菖蒲町だけと思われがちですが、昭和29年(1954)までは北は鷲宮町から久喜町、岩槻町、粕壁町(春日部市)を経て、南は越ヶ谷町、潮止村(八潮市)に至る南北に長い郡でした。さらには、明治12年(1879)から大正15年(1926)までは南埼玉郡役所が岩槻町に置かれ、地方自治体の南埼玉郡として行政が行われていました。

南埼玉郡は平安時代には埼玉郡と呼ばれていましたが、平安時代後期になる郡衙(郡の役所)は衰退し、荘園がそれに変わります。埼玉郡は太田庄と呼ばれるようになりますが、江戸時代になると地域の範囲の名称として埼玉郡が復活しました。そして、明治12年、大区小区制の廃止に伴い埼玉郡を成田町(忍町、現在の行田市)を中心とする北埼玉郡と岩槻町を中心とする南埼玉郡とに分けました。

岩槻町に南埼玉郡役所が置かれました。郡役所は当初、旧本陣宅に置かれていましたが、粕壁町が郡役所の誘致の動きを見せたことなどから、明治16年、岩槻町や付近の54村の有志が敷地1000坪と郡役所新築費全額の約5293円を寄付



して現在の旧岩槻市役所へ南埼玉郡役所を新築しました。

明治29年には郡制が施行します。郡制とは郡長、郡役所、郡会、郡参事会で構成されます。郡長は現在の市長、郡役所は市役所、郡会は市議会、郡参事会は現在、似たような組織はありません。このように、県、郡、町(村)と地方自治体は3段階で行政が行われていました。勿論、町が市制を敷くと郡から離脱しますので、市の場合は、県、市の2段階でした。

ちなみに郡参事会は5名で構成され、議長は郡長が勤め、参事会員4名の内3名は郡会議員から選ばれました。もう1名は埼玉県知事が郡民の中から選んだそうです。郡会を召集することが出来ない時の議決など多くの権限がありま

した。戦前の枢密院のような機能に近いようです。

大正6年(1917)には洋館風の南埼玉郡会議事堂が完成しました。しかし、大正12年には郡制が廃止され、大正15年には郡役所も廃止されて、南埼玉郡は地域の範囲を示すだけの存在となりました。

昭和29年から昭和30年代の昭和の大合併では春日部町や岩槻町、越ヶ谷町は市制となり、南埼玉郡を離脱しました。鷺宮町は桜田村と合併し北葛飾郡となり南埼玉郡を離脱しました。川柳村も草加町に吸収され、南埼玉郡を離脱しました。

昭和40年代の町の市制施行では久喜町や八潮町、蓮田町がそれぞれ市に昇格し南埼玉郡を離脱しました。

平成の大合併では菖蒲町が久喜市などと合併し南埼玉郡を離脱し、白岡町が市制施行し南埼玉郡を離脱しました。こうして、宮代町だけが南埼玉郡に属することになりました。

この度、白岡町が市制を施行したことにより、宮代町が唯一の南埼玉郡所属の町となったことから、この展示会が企画されました。これを機会に、本来の南埼玉郡の範囲や歴史を知って頂けると有難いと存じます。是非ご来館ください。展示会は5月6日(月・祝)まで。



大正2年の南埼玉郡全図



昭和47年の八潮市市制施行式典



昭和12年の南埼玉郡全図



明治12年の埼玉県内の郡の配置

歴史ウォーク

特別展開連講座の一環として、12月8日（土）に「杉戸宿を歩く」と題して、東武動物公園駅に集合し、杉戸宿の様子を見て歩きました。

杉戸町最初の役場跡である東福寺、南側用水、清地村の鎮守である近津神社やその付近、杉戸宿新町と旅籠や店の跡、そして杉戸宿全体が自然堤防の上にある様子等を見学しました。さらに、神明社、十辺舎一九が書いた「奥州道中膝栗毛」に出てくる旅籠屋釘屋跡、問屋場跡、下町名主跡、杉戸宿本陣跡、脇本陣跡など、杉戸宿の様子を細かく見学しました。

当日は、36名という大勢の参加者があり、皆さん説明に熱心に聞き入り、また時々質問されるなど、関心の高さが伺えました。



旅籠屋釘屋跡付近にて



高札場跡付近(関宿旧道との交差点)

文化財保護委員会の調査

宮代町文化財保護委員会では、12月23日に西光院の古文書や画像、宝生院釈迦堂等の調査、視察を行いました。

西光院では、町指定文化財の徳川家康の画像等の詳細な調査を行いました。この結果、徳川家康画像は絵の部分だけでなく掛軸全体を書いている「書表装」と呼ばれるものであることが分かりました。また、箱の墨書や落款から江戸時代後期天保年間に修繕されたことも明らかになりました。このほか、中世文書、近世文書の内容や寸法の計測等を行い記録しました。宝生院では、釈迦堂の様子や町指定文化財の大イチョウの幹周りの再計測を行い、目通り約5.5mを測りました。

このように、文化財保護委員会では毎年文化財等の調査、視察を毎年行っています。



西光院徳川家康画像調査風景



宝生院釈迦堂

次回の展示は企画「写真で見る宮代の庚申塔」です!

宮代町内には、約 120 基程の庚申塔があります。

これは、「庚申信仰」という平安時代から続く信仰により建てられたものです。庚申信仰とは「人間の身体には三匹の虫(三尸)がいて、これらの虫が庚申の日に人の寝ている間に体内から抜け出て、人の罪過を天帝に告げて災いを及ぼすので、人々はその晩寝ないで過ごす」というものです。このため人々は庚申講という組織をつくり一晩中語り明かしながら起きていました。

こうした信仰は、ことに江戸時代庶民の間に広まり、講中での供養のために造られたのが庚申塔と呼ばれる石塔です。宮代町では、最も古いものは延宝 4 年(1676)年のもので、新しいものは明治 31 年(1898)のものがあります。これらの庚申塔について、写真パネルで紹介합니다。



地藏院(西原)の庚申塔

資料館日誌抄

- 10月20日 特別展杉戸宿 (12月24日まで)
- 12月1日 郷土史講座杉戸宿と助郷 (24名)
- 12月5日 笠原小学校4年生見学 (43名)
- 12月8日 歴史ウォーク杉戸宿を歩く (36名)
- 1月5日 企画展ひなまつり (3月10日まで)
- 1月22日 道仏北遺跡試掘調査 (23日まで)
- 1月24日 那珂市経営戦略会議視察(7名)
- 2月2日 大磯町NPO法人大きなおうち見学 (20名)
- 2月7日 百間小学校3年生 (62名)
- 2月11日 観音院参拝歴史ウォーク職員派遣
- 2月13日 須賀小学校3年生見学 (86名)
- 2月13日 笠原小学校3年生見学 (51名)
- 2月13日 地藏院遺跡試掘調査
- 2月15日 宮代特別支援学校3年生見学 (2名)
- 2月16・23日 古文書から見る江戸時代の歴史講座 (35名)
- 2月19日 東小学校3年生見学 (44名)
- 3月16日 企画展南埼玉郡と宮代町 (5月6日まで)

資料館寄贈者名簿

(敬称略、順不同)

春山順子(民具)、稲山明男(新聞資料)、米山賢二(書籍)、小川朔(書籍他)、吉岡郁子(民具他)、市川龍雄(民具他)、岩崎光子(民具他)、石松克子(民具)、中村克己(民具)、小島明良(民具)、唐沢捷一(絵馬)、金子和生(民具)、斉藤勘五郎(写真他)、石塚一郎(教科書他)

宮代町郷土資料館だより えんがわ 45号

発行日 平成25年3月31日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>